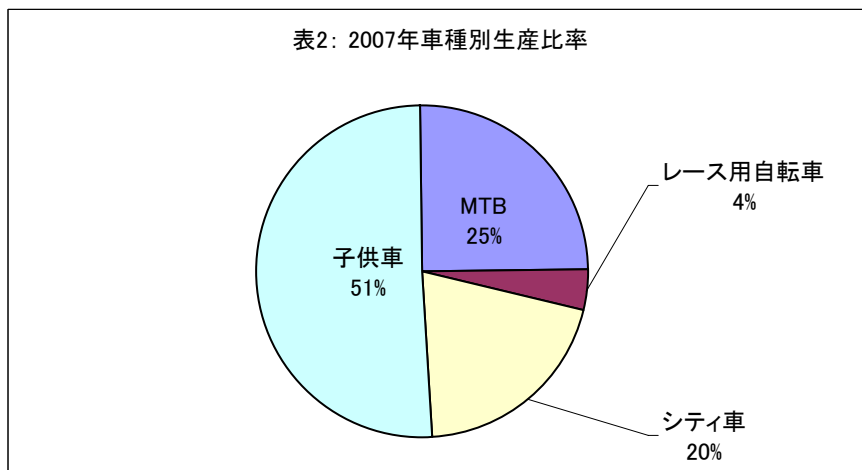
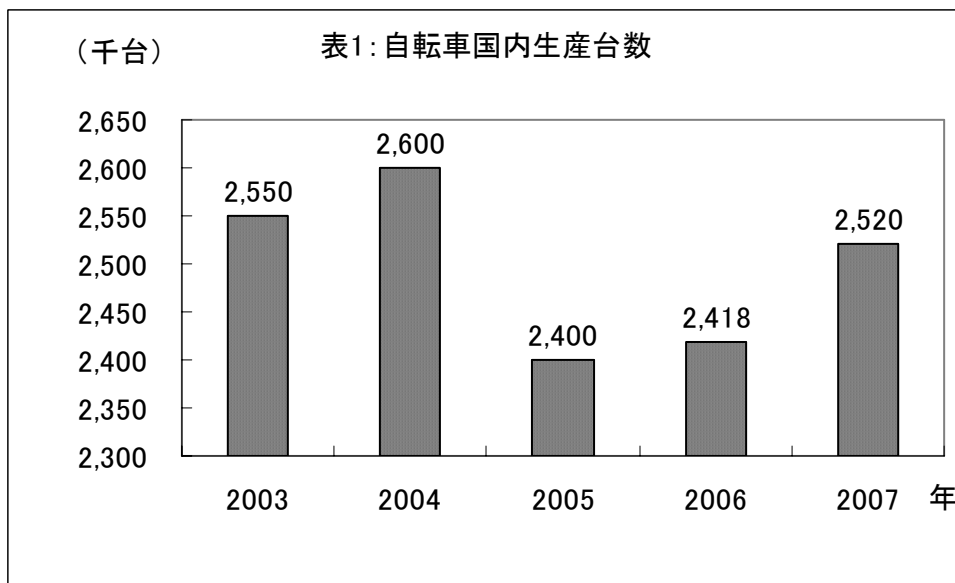


イタリア自転車市況－2007

1. 生産

ANCMA(イタリア二輪車工業会)によると、2007年の国内生産台数は、前年比約4.2%増の2,520千台となり約100千台増加した。しかし、この増加はフランス大手スポーツ用品チェーンのデュカスロンがイタリアで1年間に生産している100千台が2007年統計より加わったものであり、従来のイタリアの製造業者分だけで見れば昨年とほとんど変わらない。

車種別生産比率を見ると、レース用自転車は昨年同様、シティ車は僅か2%の微増であったのに対し、MTBは前年比8%減となり、一方で子供車は6%増と過半数の51%にまで増えている。子供車は車輪径18以下のものがすべて含まれており、その中でも幼児向けの玩具車の輸出が好調で、その分の生産台数が増えたものとANCMAでは見ている。

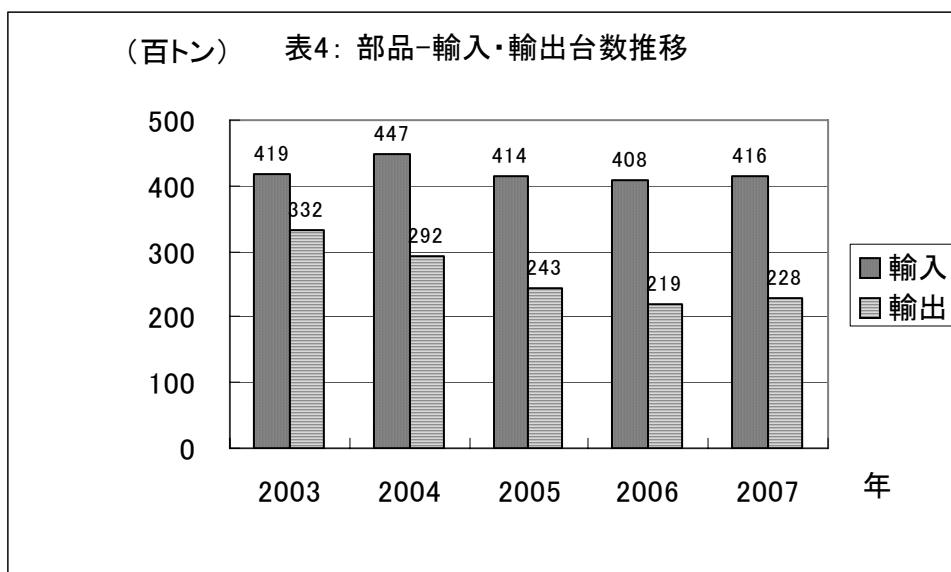
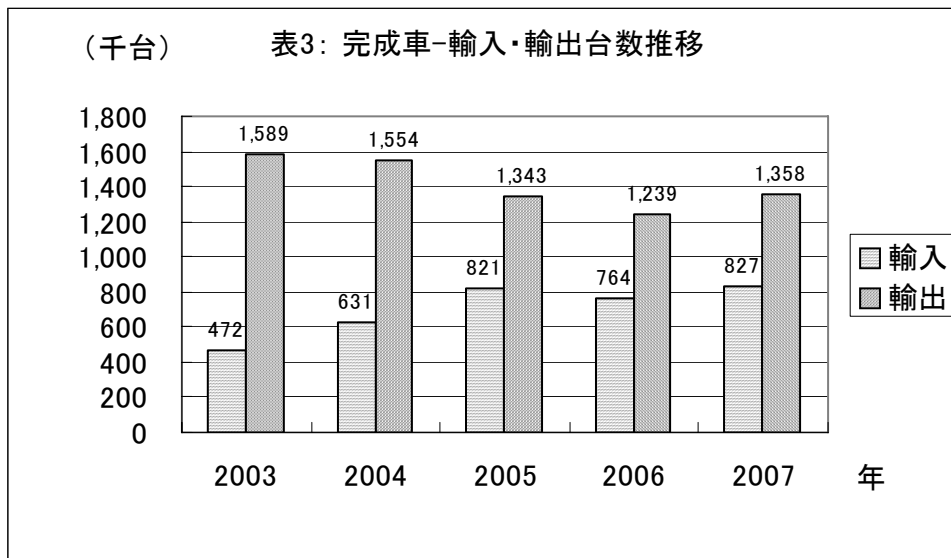


2. 輸出入

完成車輸出は、前年比9.6%増の1,358千台と増加に転じた。輸出相手国別比率では、96%がEU諸国向けであり、その他欧州地域向け2%を加えると、輸出のほとんどは欧州向けであ

る。

完成車輸入については、827千台と前年比8.2%増加し、ここ5年間では最大となった。輸入地域別比率では、中国からの輸入は僅かだが減少し、中国以外のアジア地域から28%、EU諸国30%、その他欧州地域16%及びアフリカ地域15%等となっている。輸入金額でも前年比5.4%の増加となった。



自転車部品に関しては、輸入は前年比2%増となり、ここ数年は増減を繰り返している。

地域別では、69%は中国から（前年比2%増）であり、残りはその他アジア地域22%、EU諸国6%等となっている。

輸出は前年比4.1%増と増加に転じ、地域別で78%はEU諸国向け、その他欧州地域8%、米国4%などである。なお輸出入金額とも前年比15%増となったが、これは近年の原材料費高騰等によるコスト上昇が影響しているとANCMAでは分析している。

3. 販売

完成車の販売台数は、1,989千台と前年比2.4%増となった。しかし、2007年全体で見る

と後半は天候不良により従来イタリア企業が得意とする、サドル、タイヤなどのレース用自転車を中心とした高級車向けのアフターマーケット市場の販売が伸び悩み、部品やアクセサリの売上金額は減じる結果となった。

自転車販売店全業態の小売平均単価は、前年比3.2%増の320ユーロ(52,800円)であった。

これは、高価なレース用自転車や、比較的単価の高いトレッキング車の販売が堅調であったことが要因とされている。従前、スーパー等の量販店で50ユーロ(8,250円)程度で販売されていた廉価なMTB類型車は敬遠されつつあり、原材料費高騰及び欧州自転車規格の安全基準に適合する製品造りなどによりコストが上昇し、廉価車の販売価格は現在70ユーロ(11,550円)程度にまで上昇していると思われる。

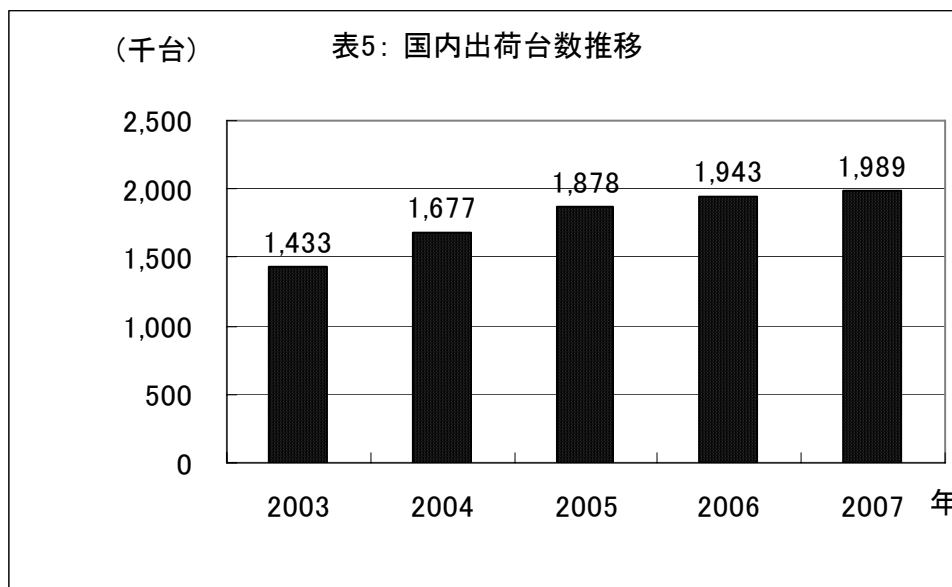


表6: 伊市場売上金額 (単位: 百万ユーロ)

年	2005	2006	2007	前年比(%)
完成車(※電動自転車除く)	580	602	636	105.6
電動自転車	10	11	14	127.3
部品・アクセサリー	200	200	190	95
修理	25	25	25	100
合計	815	838	865	103.2

電動アシスト自転車の平均単価は、2007年では700ユーロ(115,500円)となり、前年(780ユーロ:128,700円)より若干下降した。販売台数は、20,000台と前年より、5,000台の増加となった。同車種の販売台数が増加しているのにも拘わらず、平均単価が下がっているのは、主に中国から廉価な輸入車が増えているためである。イタリア国内の電動アシスト車の製造業者は4、5社程度であるのに対し、輸入・販売だけを手がける業者は国内30~40社にも達し、乱売競争による低品質車の氾濫が懸念されており、イタリア国内における電動アシスト車の正しい普及のための、関係当局をも巻き込んだ施策が求められている。

4. 混乱が続くイタリア展示会

昨年、イタリア最大の自転車展示会であるミラノ展(EICMA)は、11月にオートバイとの合

同開催に戻りその成否が注目されたが、期間中は多数の来客がつめかけ、レースイベント「BIKES4SHOW」併催などの効果もあって成功を収めた。今年のレースイベントは、「6日間レース」にグレードアップを図り、11月にオートバイ展と合同開催の予定である。

しかし、ビジネスの場として11月開催では遅いという懸念を完全には払拭できず、今年9月にイタリアのパドバに於いて別の自転車展示会が予定されている。商談時期としては9月のほうが適切とも思われるが、イタリア自転車業界では、年間2つの展示会は必要なく、どちらに出展してよいのか迷う等の意見もあり、実際にこの新しい展示会が9月に開催できるかどうかは不明である。今後、両展示会の動向に注目が必要である。

以 上

統計出所：イタリア二輪車工業会(ANCMA)

(デュッセルドルフ事務所)